



徳政26

葉玉

寒気お徳の舞

下は起居か行候

三吉新お徳の内來

示の類起き早集來

田村氏に：お徳の

皮同氏お徳の

成三お徳の

お徳の

香色氏お梅屋

成之止まの山の上

お角屋加老屋の末

藤坪の家を記す

赤丸屋のまき道

とらたや岩屋

天七第の大家

金也 京都の有る

自然なるもの

方有つて知らぬ

出はの何の代

室方お梅屋

の出る屋を

くわいお梅屋

お梅屋

大山お梅屋

中より

大山古形も中目

字の五程の来

来り廿日

何れか一秋

一

後身も好

硬何の

お調公

物

財政

習は

の由

先

左

石川氏

お調心堂及徳林

物カカ

財政の事之被任及

符は元撫方格衆

の由之由衆

先由符之由衆

左好半信下

十月十六

徳海生

大徳伯周下